

# 参 考 資 料 — 1

## 九州地方整備局における主要プロジェクト

### 【河川関係】

○大規模水害・土砂災害等に備えた治水対策、濁水対策の推進

- ・矢部川河川激甚災害対策特別緊急事業 <個-1>
- ・花月川河川激甚災害対策特別緊急事業 <個-2>
- ・白川河川激甚災害対策特別緊急事業 <個-3>
- ・山国川床上浸水対策特別緊急事業 <個-4>
- ・川内川鶴田ダム再開発事業 <個-5>

### 【道路関係】

<個-6>

○代替性確保ネットワーク整備等の防災・震災対策

- ・東九州自動車道
- ・西九州自動車道
- ・南九州西回り自動車道
- ・九州横断自動車道延岡線

### 【港湾・空港関係】

<個-7>

○社会資本の戦略的な維持管理・更新の推進

- ・鹿児島港新港区複合一貫輸送ターミナル改良

○効率的な物流ネットワークの強化

- ・博多港アイランドシティ地区国際海上コンテナターミナル整備
- ・福岡空港国内ターミナル地域再編整備

平成25年8月27日

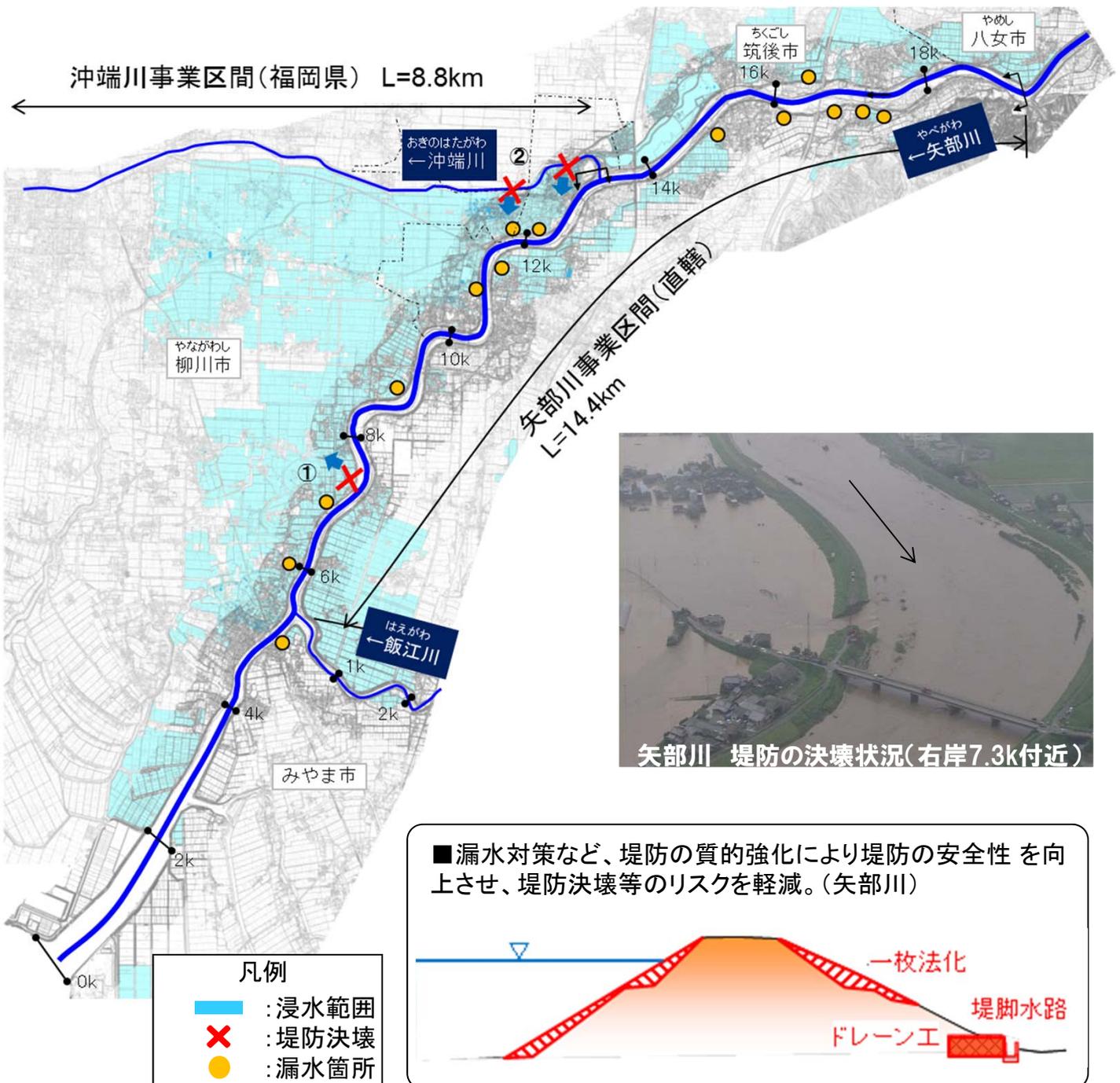
国土交通省九州地方整備局

# 平成24年7月 九州北部における豪雨災害への対応

## ◆矢部川河川激甚災害対策特別緊急事業

○矢部川水系矢部川及び沖端川では、平成24年7月14日出水により観測史上最高の水位を記録する洪水が発生し、矢部川及び沖端川の沿川において、堤防決壊による外水氾濫及び内水氾濫により、1,808戸の家屋が浸水する甚大な被害が発生しました。

○7月14日の洪水に対し、平成24年度より河川激甚災害対策特別緊急事業によって矢部川では堤防質的強化を、沖端川では河道掘削等を集中的に実施し、浸水被害の軽減を図ります。

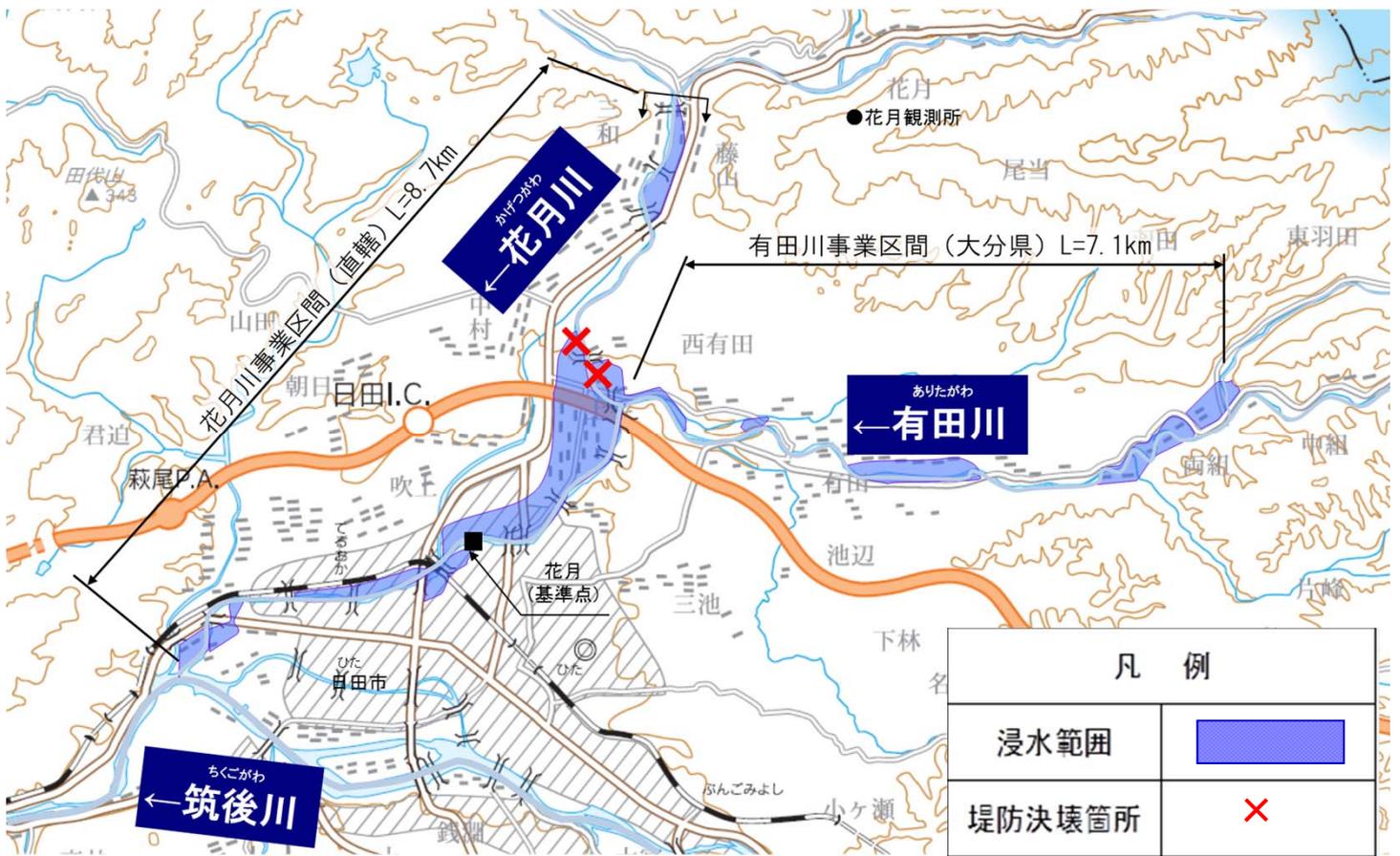


# 平成24年7月 九州北部における豪雨災害への対応

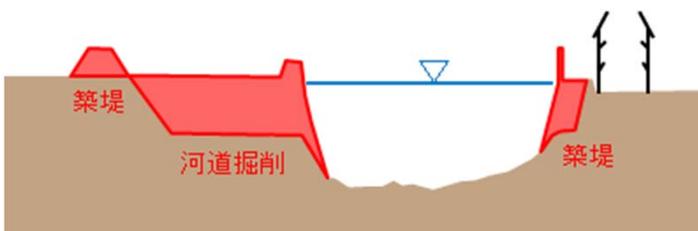
## ◆花月川河川激甚災害対策特別緊急事業

○筑後川水系花月川及び有田川では、平成24年7月3日出水により観測史上最高の水位を記録する洪水が発生し、花月川及び有田川の沿川において、堤防からの越水や堤防決壊等により、835戸の家屋が浸水する甚大な被害が発生しました。

○7月3日の洪水に対し、平成24年度より河川激甚災害対策特別緊急事業によって築堤および河道掘削、横断工作物の改築等を集中的に実施し、浸水被害の軽減を図ります。



■河道掘削、築堤及び横断工作物の改築により、流下能力を確保し、家屋の浸水被害を軽減。(花月川)



# 平成24年7月 九州北部における豪雨災害への対応

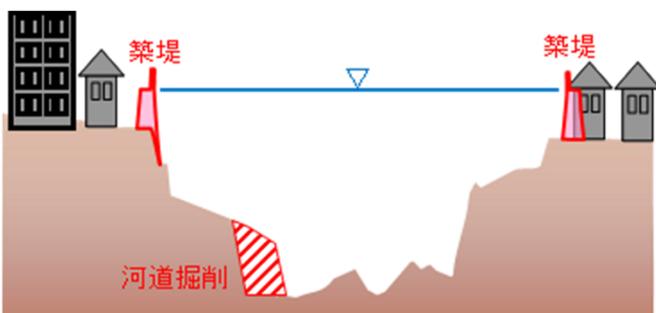
## ◆白川河川激甚災害対策特別緊急事業

○白川水系白川及び黒川では、平成24年7月12日出水により観測史上最高の水位を記録する洪水が発生し、白川及び黒川の沿川において、堤防からの越水等により、2,983戸の家屋が浸水する甚大な被害が発生しました。

○7月12日の洪水に対し、平成24年度より河川激甚災害対策特別緊急事業によって築堤及び河道掘削等を集中的に実施し、浸水被害の軽減を図ります。



■河道掘削及び築堤により流下能力を確保し、家屋浸水被害を軽減。(白川)



# 平成24年7月 九州北部における豪雨災害への対応

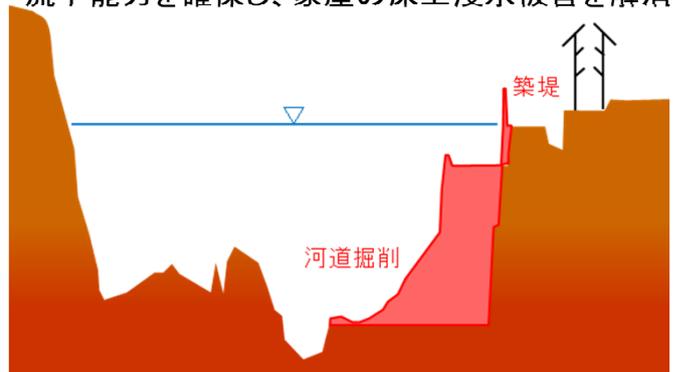
## ◆山国川床上浸水対策特別緊急事業

○山国川水系山国川では、平成24年7月3日及び14日の梅雨前線豪雨により観測史上最高の水位を記録する洪水が発生し、7月3日の洪水において336戸、7月14日の洪水においては344戸の家屋が浸水する甚大な被害が発生しました。

○7月3日および7月14日の洪水に対し、平成25年度より床上浸水対策特別緊急事業として堤防整備、河道掘削等および横断工作物の改築等を集中的に実施し、家屋の床上浸水被害の解消を図ります。



■河道掘削、築堤及び横断工作物の改築により、流下能力を確保し、家屋の床上浸水被害を解消



# 既存施設の機能向上による洪水調節能力の増強

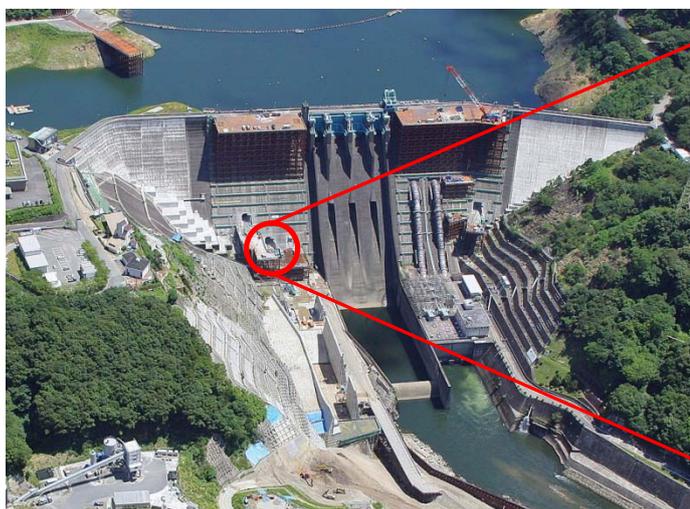
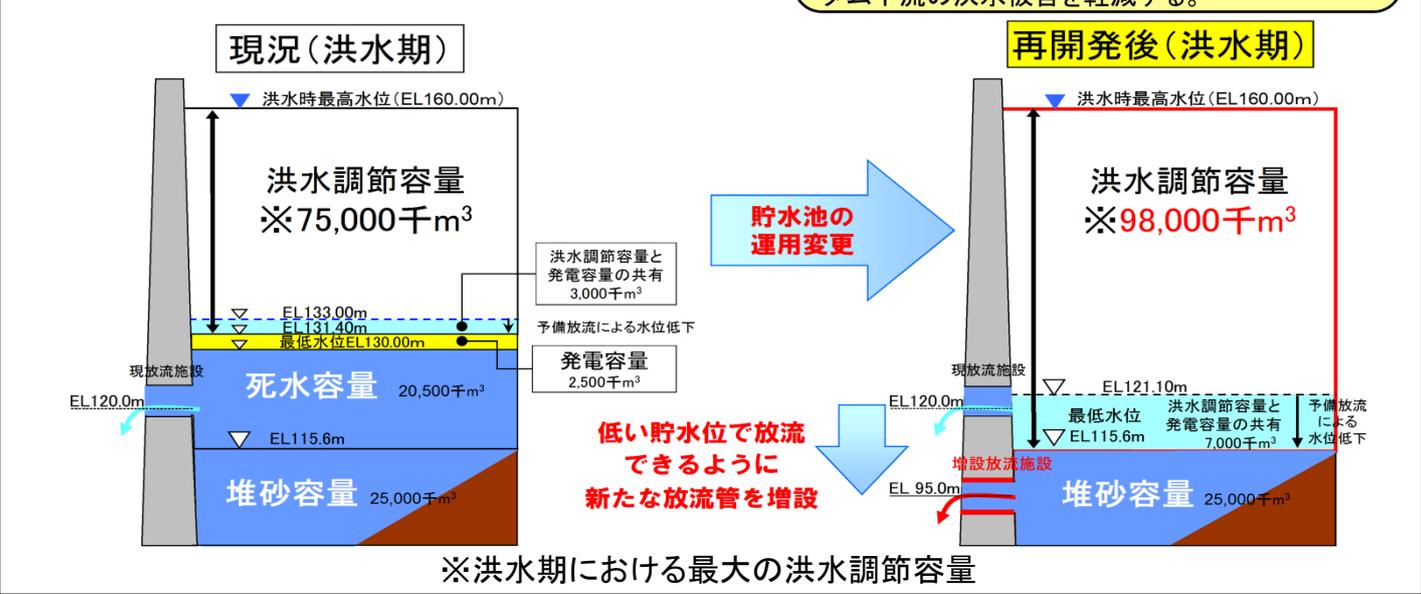
## せん だい つる だ ◆川内川鶴田ダム再開発事業

平成18年7月の記録的な豪雨による川内川流域の浸水被害を受け、既設鶴田ダムの洪水期の利水容量等を洪水調節容量に振り替え、洪水調節容量の増量を行います。このために、放流設備の増設を行い、洪水期の洪水調節能力の増強を図ります。



- 事業概要
- 場 所: 鹿児島県薩摩郡さつま町 (川内川水系川内川)
  - 目 的: 洪水調節(川内川の洪水被害軽減)
  - 諸 元: 洪水調節能力の増強 (堤体放流設備の増設)
  - 経 緯: 平成19年度 建設事業着手

現放流施設より、さらに低い水位で放流できるよう新たな放流管を増設し、洪水期における現行操作規則での最大洪水調節容量75,000千 $m^3$ (6/11~8/31)を1.3倍の98,000千 $m^3$ とすることで、ダム下流の洪水被害を軽減する。



ダム下流側(H25年7月撮影)



放流設備増設のための堤体削孔状況 (H25年5月撮影)



# アジアの成長の取込みと国土強靱化に向けた海と空の拠点整備

○急速な経済成長を続けるアジア諸国に近い九州の優位性を活かし、我が国の国際競争力の向上や観光立国の実現に向けて、港湾・空港の整備を推進します。

○大規模地震・津波・高潮等の自然災害に対する防災・減災対策や港湾施設等の老朽化対策による国土強靱化を推進します。

○地域経済を支える基幹産業振興のための港湾・空港インフラの強化、離島地域等の安定した生活を支える港湾機能の確保、海洋環境の保全等、安心して暮らせる地域づくりや地域活性化を推進します。

## 博多港（アイトﾞシティ地区）国際海上コンテナミナル整備

大規模地震時の海上輸送機能を確保し、外貨コンテナ貨物取扱量の増加や船舶の大型化への対応を図ります。



コンテナ荷役状況

## 鹿児島港（新港区）複合一貫輸送ターミナル改良

老朽化が著しく狭隘なふ頭の改良、大規模地震時の輸送拠点となる耐震岸壁の整備を進めます。



狭隘なふ頭

## 福岡空港国内線ターミナル地域再編整備

福岡空港において、現状の遅延・待機緩和対策として国内線ターミナル地域の再編整備を進めます。また、抜本的な空港能力の向上のため、滑走路増設に係る環境影響評価の手続きを進めます。



平行誘導路の混雑状況

### 平行誘導路二重化による遅延・待機緩和効果

